

イスラム教徒は「特殊」なのか  
～テロ、民主主義と中東イスラム世界～

---

平成24年度拓殖大学政治経済研究所公開講座

2012年7月21日

1

## 要点

- 国内のモスクを訪問して
- 警戒の対象となるイスラム教（徒）
- イスラム教はテロの温床なのか
- イスラム教は民主主義と相容れないのか
- 人間行動としての宗教



## 聖典にみる過激さ

- イスラム教（コーラン）
- ユダヤ・キリスト教（律法・聖書）
- とはいえ、聖典は基本的に、何とでも読める柔軟性、複雑性

## イスラム警戒論

- コーラン（9章5節）

だが神聖月が明けたなら、多神教徒は見つけ次第殺してしまうがよい。

- コーラン（9章28節）

汝ら信徒の者よ、多神教徒は全く汚れそのもの。



# ユダヤ・キリスト教聖書

- 申命記（20章16-17節）

あなたの神、主が相続地として与えようとしておられる次の国々の民の町では、息ある者を一人も生かしておいてはならない。  
.....主が命じられた通り、必ず聖絶しなければならない。

# イスラム教とテロ

- 一見、やはり中東イスラム世界はテロと結びつく
- だが、イスラム教自体がテロの要因なのか？



図1 地域別テロ発生件数 (1970-2010累計)

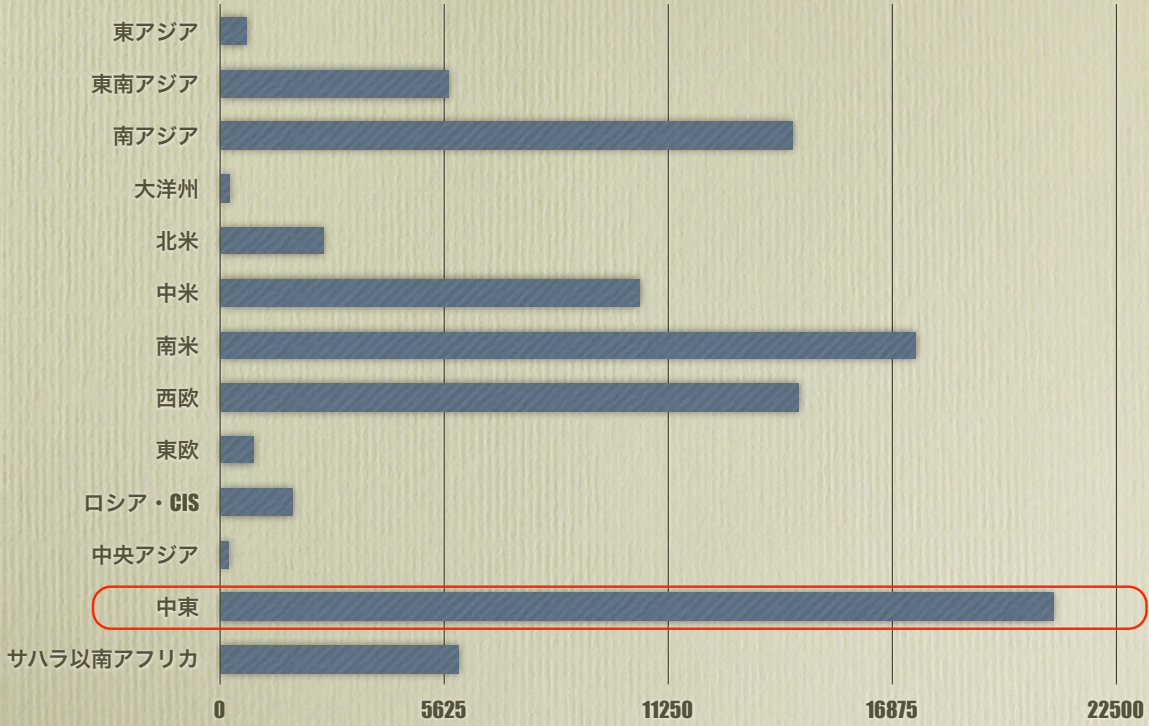


図2 地域別テロ死者数 (1970-2010累計)

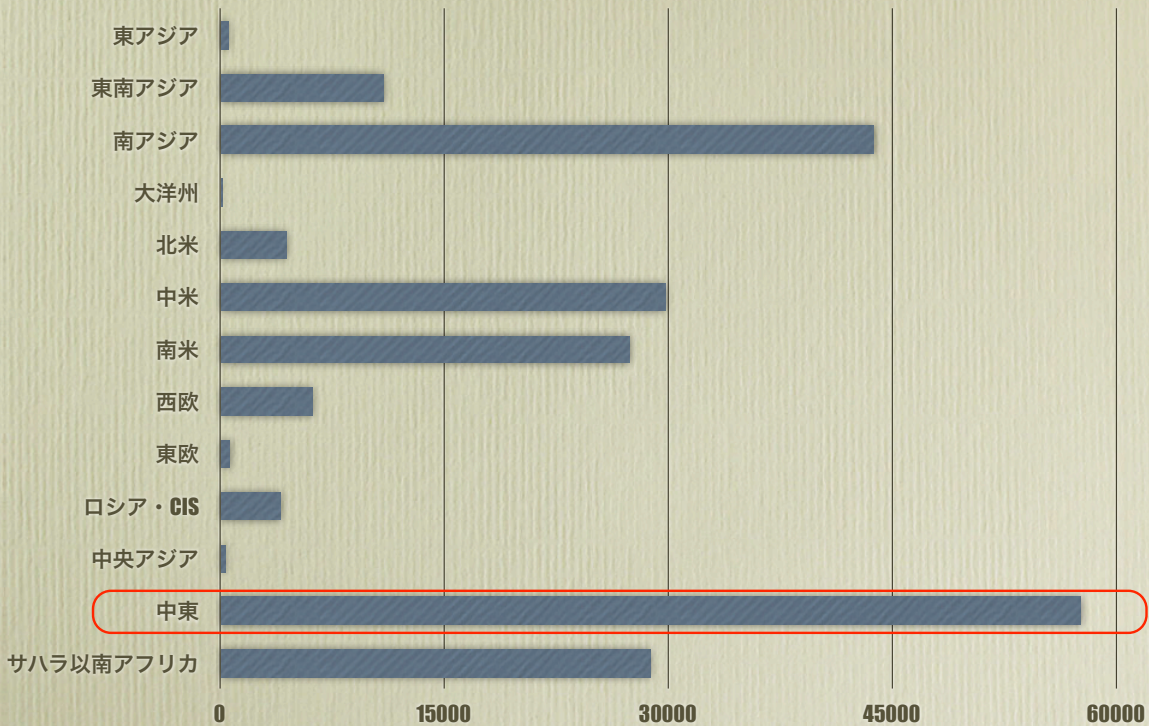




図3 テロ多発5地域におけるテロ発生件数の推移

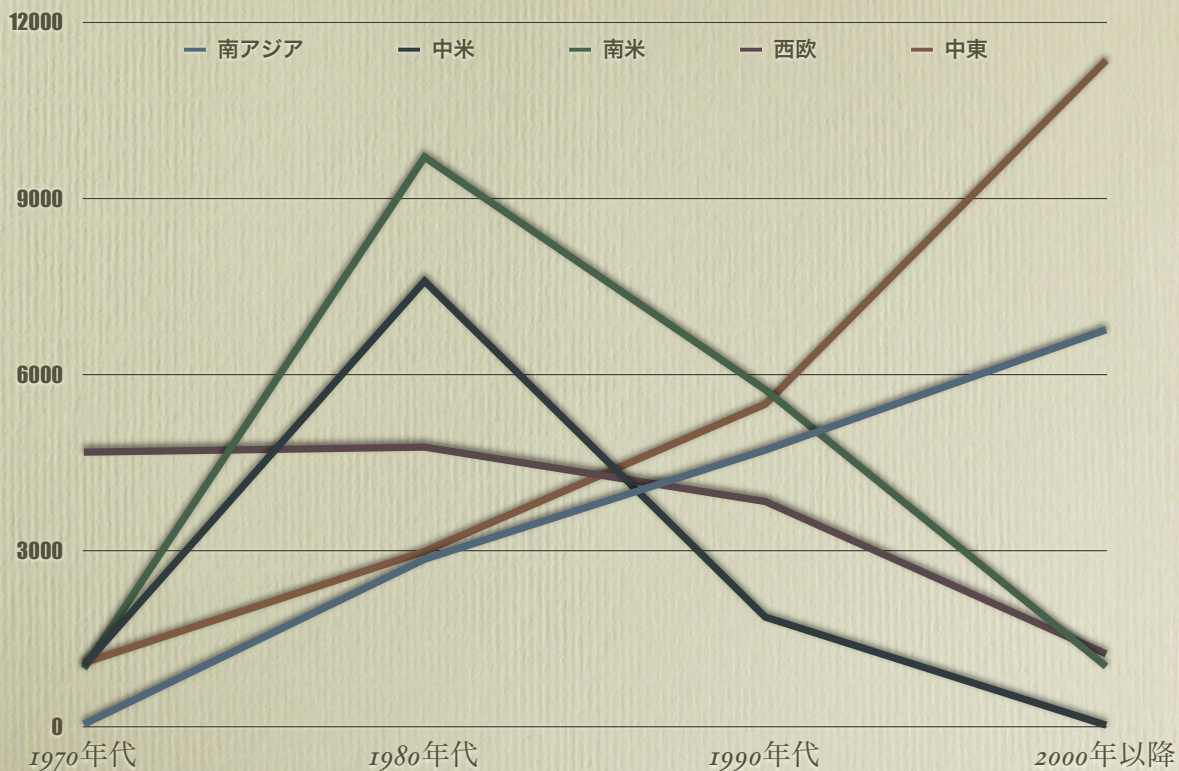


表1 中東におけるテロ発生件数増加の要因

	①70年代～ 80年代	②80年代～ 90年代	③90年代～ 2000年以降
全体増減率	174.1	83.9	106.4
寄与度第1位	レバノン：105.2	アルジェリア：45.2	イラク：110.0
寄与度第2位	西岸・ガザ：26.3	トルコ：42.5	アフガン：41.9
寄与度第3位	イスラエル：25.1		
上記寄与度計	156.7	87.7	151.9
全体増減率 -寄与度計	17.4	-3.8	-45.5



# イスラム教と民主主義

- EIU「民主主義指数」によれば、中東には「完全なる民主主義」はなく、イスラエルが「欠陥ある民主主義」となっているのが最高
- 他の国の多くは、「権威主義体制」
- しかしイスラム教徒の多いアジアの国は、また別の傾向

II

11

表2 英Economist Intelligence Unitの民主主義指数

完全なる民主主義 full democracies	8.0-10.0
欠陥ある民主主義 flawed democracies	6.0-7.9
混合体制 hybrid regimes	4.0-5.9
権威主義体制 authoritarian regimes	0.0-3.9

I2

12



表2 民主主義指数による中東諸国

完全なる民主主義	日本	8.08
欠陥ある民主主義	イスラエル	7.48
	インド	7.28
混合体制	インドネシア	6.53
	レバノン	5.82
	トルコ	5.73
	世界	5.46
	パレスチナ	5.44
	パキスタン	4.55
	イラク	4.00
権威主義体制	クウェート	3.88
	モロッコ	3.79
	ヨルダン	3.74
	バハレーン	3.49
	中東	3.49
	アルジェリア	3.44
	カタール	3.09
	エジプト	3.07
	オマーン	2.86
	チュニジア	2.79
	イエメン	2.64
	アラブ首長国連邦	2.52
	アフガニスタン	2.48
	スダン	2.42
	シリア	2.31
	イラン	1.94
	リビア	1.94
	サウジアラビア	1.84

13

## 中東の民主化が遅れる要因

- 紛争の多さ（パレスチナ問題、国境問題、少数民族 [民族・宗教・宗派] 問題等）
- 石油収入とその分配
- 他方、民主主義の採用に関して中東・イスラム諸国は、根源的誘因に乏しいといえる
- 1688英名誉革命、1789仏革命の背景には身分制度
- 革命は身分制度に何をもたらしたか？



民主的かどうかの基準：  
議会制民主主義という制度的枠組みでの決定

- **国民の代表である議会**の存在  
⇒ 身分制の遺産
- 議会での**合議に基づく決定（多数決）**  
⇒ ローマ教皇選出時の遺産

## 多数決に基づく議会の決定

- 多数者の意思 ⇒ 正しさ（正当性）？
- 多数者の意思 ⇒ 従わざるをえない



正統性（自発的服従の根拠）



# 「民主主義」は危険なもの

- 『ザ・フェデラリスト』（ハミルトン他：1788年）

⇒人民の友といった仮面こそ、強力な権力以上に専制主義をもたらす

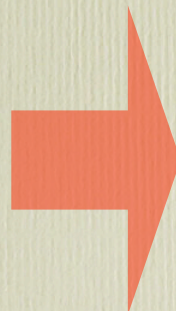
- 『法の精神』（モンテスキュー：1748年）

⇒人民は選ぶためにのみ統治に参加すべし

合議に基づく決定であれば、かつて中東にも存在

ムハンマド死に続いた正統カリフ時代  
(632-661年)

- アブー・バクル (632-634年)
- ウマル (634-644年)
- ウスマーン (644-656年)
- アリー (656-661年)

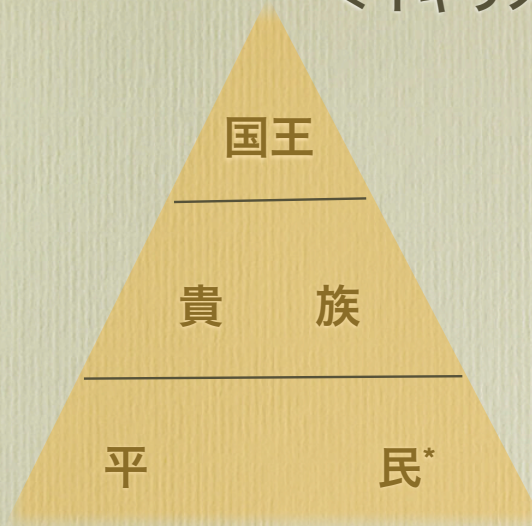


殺害



<イギリス：身分制度>

政治的身分



国王

貴族

平民\*

貴族院

庶民院

非政治的身分

その他

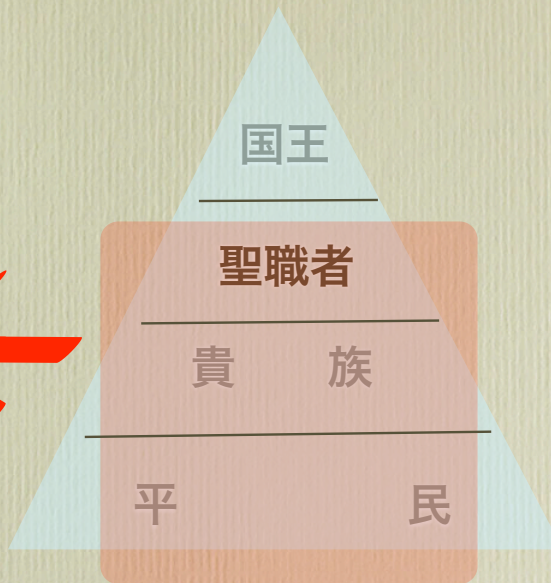
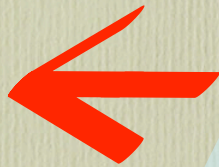
\*ジェントリ（貴族でないが紋章可）、ヨーマン（自作農）

国民主権 × 議会主権 ○

- 議会主権...議会において 国王が 行使
- しかし議会での決定は、法の支配の下に置かれる



三部会



<フランス：身分制度>

## ルソー 『社会契約論』

- 人間は生まれつき自由
  - そうした状態を社会全体で生み出す必要
- ↓
- 社会契約
1. 全員が全ての権利を一時的に社会に預ける
  2. 社会全体の意思（一般意志）で、全員が持つべき権利の内容を決定
  3. そうした決定（法）に従い、全員が平等に権利を受け取る



# 議会の法の重要性

- 議会で成立した法には、国民の誰もが従わねばならない
- フランス国民であれば、出身地や経済階層、思想・信条、宗教等の違いは関係ない
- 2011年、公的な場で顔を隠すことを禁止する法案可決
- 宗教的自由といった視点からの批判はあるものの、「法の支配」的視点からの批判はありえない

## 宗教が人を創るのではなく、 人こそが宗教を創ってきた

- 狩猟民族と農耕民族という俗説的二分法にもかかわらず、我々には基本的に狩猟採集民としての性格
- **平等主義的**であり、同時にまた、**戦闘的**
- 平等主義的人間を、戦闘的社会で生き残らせるためには、集団のために自己を犠牲とすることを厭わない行動が必要



## 人類の歴史

- 200万年前：アフリカでヒト属誕生
- 50万年前：原人（火・言葉の使用）
- 50-30万年前：旧人（精神的進化→葬式）
- 20万年前：新人（ホモ・サピエンス）（現生人類）

脳の拡大

## 現生人類を特徴づける狩猟採集社会

- 現生人類（20万年前～）
  - 定住（1.5万年前）→農耕（1万年前）
  - ほとんどは狩猟採集民としての期間
- 狩猟採集社会は①小集団と②平等主義に特徴
- 階層と強権の誕生は農耕社会で実現



## 人類学者による狩猟採集社会の構造

- 狩猟採集民の社会構造
  - 極めて平等主義的
  - 指導者や主張を持たず、誰も命令を出さず受けもしない
  - 支配が不可能ならむしろ支配者がいないことを好む
- 狩猟採集社会における突出した個人への対処
  - 決まって抵抗勢力
  - 強者が支配を指向すれば、敬遠、集団からの追放、あまりに威圧的であれば殺害

27

27

## なぜ、平等主義か

### チンパンジーとの分化

- 脳の劇的拡大
- 武器の発明・知能の発達
- 知力を基に専制的指導者への抵抗を組織

28

28



## 平等主義社会の弱点と宗教

- 内部 →強者不在ゆえの社会的弛緩・非効率
- 外部 →外敵への弱さ
- 以上を克服する発明が、宗教ではなかったか？
- 狩猟採集社会の戦闘性が、これに拍車
- 宗教は人々に、共同体を守るための自己犠牲を受け入れさせる道具（血の繋がりが無い場合、生物学的には説明が困難）
- 超自然界の代理者という効果的な懲罰システムがこれを担保

## 人類学者による狩猟採集社会の戦闘性

- 狩猟採集社会では、戦闘は自然な状態
- 男の死亡理由 →戦闘が理由の30%に達する部族あり



## 結論

- イスラム教自体がテロを生む出すわけではない
- イスラム教自体が民主主義と敵対的なわけではない
- 他の一神教と同様、イスラム教自体は我々が環境適応の必要に応じて生み出したもの
- 当然、環境の変化はイスラム教徒の変化を促す

## 主要参考文献

- テロ関連データ：
  - (1)National Consortium for the Study of Terrorism and Responses to Terrorism (START), *Global Terrorism Database (1970-2010)*.
- 民主主義指数：
  - (2)Economist Intelligence Unit (EIU), *Democracy Index 2010*.
- その他：
  - (3)西田正規『人類史のなかの定住革命』（講談社学術文庫、2007年）。
  - (4)ニコラス・ウェイド（依田卓巳訳）『宗教を生みだす本能』（NTT出版、2011年）。
  - (5)Anzar Gat, *War in Human Civilization* (New York: Oxford University Press, 2008).